

連続講座 新・大阪学事始「なにわ古代史2」

巨大古墳の謎 ー百舌鳥・古市古墳群ー ①

巨大古墳の世紀

ーその出現と背景ー

2019年9月5日 柏原市立歴史資料館 安村 俊史

はじめに

百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に認定されました。大阪初の世界遺産であり、古墳としても日本初の世界遺産となります。なぜ百舌鳥・古市古墳群に巨大古墳が多数築造されたのか。その被葬者は誰なのか。3回にわたって、その謎に挑戦してみたいと思います。

まず一回めは、前方後円墳とは何か。巨大古墳とは何か。百舌鳥・古市古墳群とは何か。と考えたうえで、世界遺産と陵墓の抱える課題について考えてみたいと思います。

1. 前方後円墳とは

○古墳時代 (早期)、前期、中期、後期、(終末期)

○前方後円墳 鍵穴形の古墳 keyhole shaped tomb

・蒲生君平 (1768~1813) 『山陵志』

「必ず宮車に象る。而して前方後円となさしめ、壇をつくりて三成とし、かつ環らずに溝を以てす。」

宮車 車塚、茶臼塚、銚子塚など。

前方部 祭壇説、壺模倣説、通路発達説。

段築、周濠の存在を指摘。

・巨大な墳丘

・全国に分布 岩手県~鹿児島県

⇒支配・被支配の関係を明示 or 同盟 (連合) の象徴 or 合意に基づく秩序など。

⇒共通の祭祀を共有した証。

○箸墓古墳 (箸中山古墳) 桜井市

・最古の前方後円墳。全長 280m。墳丘形態、周濠、葺石、埴輪などが整う。

・倭迹々日百襲姫命 (ヤマトトヒモモノヒメノミコト) 陵として宮内庁管理。

・3世紀中葉~後葉 土器、特殊器台形埴輪、年輪年代などから。

・各地の要素を統合 吉備、四国、丹後、山陰、東海。

⇒大和の勢力の発展とみるよりも、各地の勢力が結集して築造したのではないか。

邪馬台国の卑弥呼の古墳と考える研究者が多い。

○纏向型前方後円墳 (前方後円形墳丘墓)

・箸墓古墳に先行する墳丘墓。古墳と認めるか否か。

・纏向遺跡 各地の土器出土。大型建物発見。邪馬台国か。

○ヤマト政権

・大和 or ヤマト or 倭 or 畿内 or 中央。 政権か王権か。

2. 百舌鳥・古市古墳群

①五大古墳群

・オオヤマト古墳群、佐紀古墳群、馬見古墳群、古市古墳群、百舌鳥古墳群。

②古市古墳群

・現存 45 基。全体で 150 基以上。

・佐紀古墳群から古市古墳群へ巨大古墳、陵墓が移る。

造営期間が重なる。移動か勢力交代か。

・津堂城山古墳の評価 二重周濠、長持形石棺。陵墓か否か。前期末か中期初頭か。

③百舌鳥古墳群

・古市古墳群よりも陵墓が少ない。造営終了が早い (5世紀後半)。

・戦後多数の古墳が消滅。大塚山古墳 (全長 168m) など。

3. 世界遺産としての百舌鳥・古市古墳群

①世界遺産登録

○構成資産

45 件 49 基の古墳。百舌鳥エリア 23 基、古市エリア 26 基。

○概要

百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の最盛期であった4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の政治・文化の中心地のひとつであり、大陸に向かう航路の発着点であった大阪湾に接する平野上に築造された。

世界でも独特な、墳長 500 メートル近くに達する前方後円墳から 20 メートル台の墳墓まで、大きさと形状に多様性を示す古墳により構成される。墳丘は葬送儀礼の舞台であり、幾何学的にデザインされ、埴輪などで外観が飾り立てられた。

本資産は、土製建造物のたぐいまれな技術的到達点を表し、墳墓によって権力を象徴した日本列島の人々の歴史を物語る顕著な物証である。

○評価基準

・古墳は日本各地に 16 万基存在するものの、日本古代の古墳時代の文化を代表し、また類まれな物証を提供するものが百舌鳥・古市古墳群である。45 の構成資産は、この時代の社会政治的構造、社会的階層差および高度に洗練された葬送体系を証明している。

・百舌鳥・古市古墳群は、古代東アジアの墳墓築造のひとつの顕著な類型を示すものである。古墳、およびその有形の属性である土像、濠、幾何学的な段築をもち、石で補強した墳丘は、この歴史的に重要な時代における社会階層の形成のうえで顕著な役割を果たしたものである。

○審議内容

・規模の大小と多様な墳形により古代の社会政治的な構造が示された世界にも稀有な物証である。

・1600年にもわたり守られ、現在では市街地にありながらも、高いレベルの法的保護のもとに保存管理された素晴らしい物証である。

・開発圧力に対する住民運動によって保護された古墳が構成資産に含まれているなど、地域社会にも根差した資産である。

※いたすけ古墳 1853年土取工事着工→保存運動→1956年史跡指定。

[以上、文化庁ホームページより]

②世界遺産への期待

- ・文化財保護の意識の高まり。
- ・古代史への関心の高まり。
- ・今後の調査・保存への影響力が大きくなる。
- ・来訪者の増加→地域づくり、まちおこし。

③今後の課題

○本来は、古市・百舌鳥古墳群。

○古墳の名称 「仁徳天皇陵古墳」を例として

- ・「仁徳天皇陵古墳」 現在仁徳天皇陵に治定されている古墳。
- ・被葬者は不明→誤解を与える。
- ・森浩一 「仁徳天皇陵」への疑問→仁徳陵古墳(1969)→大山古墳(1976)
地元での名称あるいは小字名などによる名称を使用すべき。
ほぼ定着し、現在では教科書でも大山古墳(仁徳陵)などの記述が多い。
- ・「天皇」の呼称は7世紀後半以降。「大王」も5世紀後半以降。
- ・「伝仁徳陵」 地元で伝承があるのか。多くは幕末～明治に決定。
- ・「現仁徳天皇陵」 現在仁徳天皇陵に治定されている古墳。

○「国内法によって保護されている」という条件。

- ・文化財保護法による史跡指定が条件。
- ・宮内庁の陵墓は史跡に指定されていない。以前は文化財と認めていなかった。

○公開の原則

- ・陵墓は非公開で立ち入りもできない—関心をひくことができるか?

○原則として6世紀以降の古墳を除く。

- ・今後、一体保存を図れるか。

○バッファゾーン

- ・すでに市街化—今後の保存と景観。

○駐車場

- ・古市古墳群にはほとんど駐車場なし。

○博物館

- ・古市古墳群には資料館もない。出土品の見学ができない。

○堺市のハニワ課長

- ・6世紀の埼玉県出土埴輪をキャラクターに。

→学術的価値を考慮せず、人寄せのみを考えている。百舌鳥出土埴輪を使うべき。

4. 陵墓とは

○陵墓 皇族の墓地。“陵”と“墓”。

- ・陵 天皇、皇后、太皇太后、皇太后を葬る。
- ・墓 それ以外の皇族を葬る。

○現在 850の陵墓。天皇陵古墳約80基。陵墓参考地46箇所。

○名称

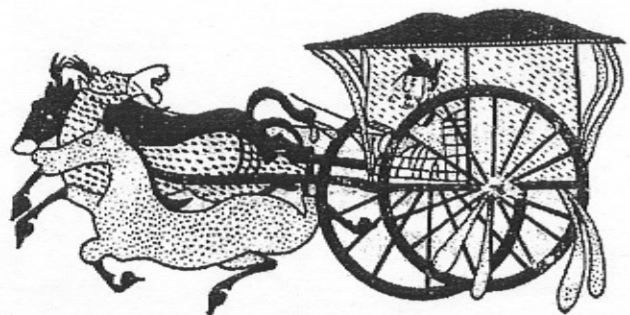
- ・○○天皇□□陵 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵

○宮内庁書陵部が皇室財産として管理。

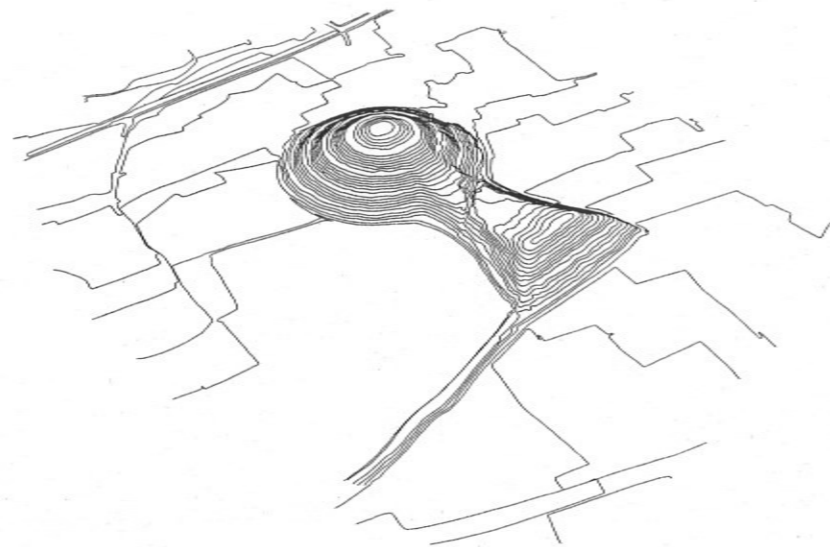
- ・「静謐と安寧を保持」→立ち入り禁止。

○陵墓の歴史

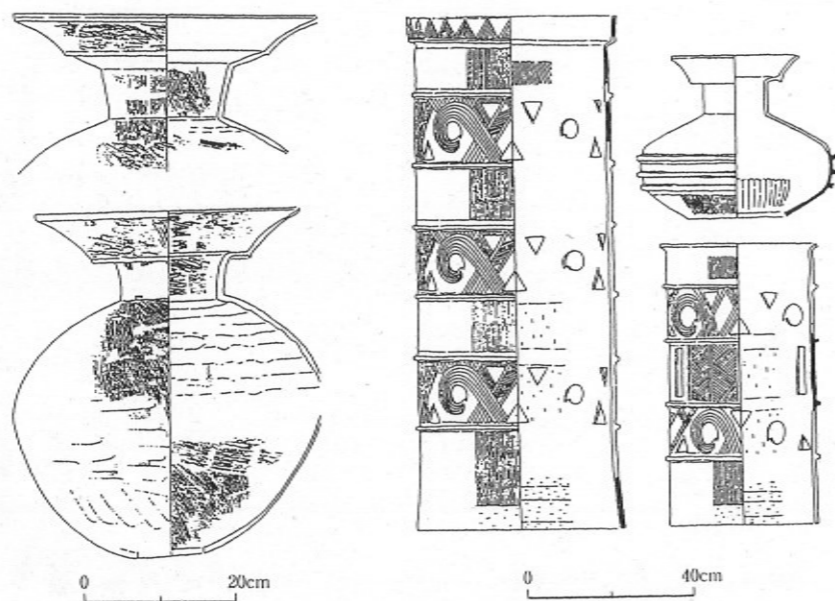
- ・『古事記』『日本書紀』(8世紀前半)に陵墓記載—『帝紀』に基づく。
 - ・『延喜式』(10世紀前半)諸陵寮に記載。
 - ・『続日本後紀』(869)に、神功皇后陵と成務天皇陵を逆にしていたことを絵図で確認したとある。
 - ・中世には、城などに利用された陵墓も多かった。
 - ・江戸時代には村の入会地として伐採等が行われ、社寺の堂・祠もあった。
 - ・江戸時代に天皇陵の探索進む。
 - ・幕末から明治にかけて、順次『古事記』『日本書紀』『延喜式』、地元の伝承などから特定される。
 - ・幕末に天皇陵の整備が進む。文久の修陵(1862~1865)。幕府の朝廷対策。
- 陵墓管理の問題点
- ・立入禁止 保存できる反面、墳丘の荒廃も。
 - ・原則として非公開 文化財は国民共有の財産。発掘を求めているのではない。
 - ・治定範囲のみの保存に限られる。古墳の一部でも範囲外は開発も黙認。
 - ・現在の治定に誤り。訂正はしない。「御霊は宿っている」。



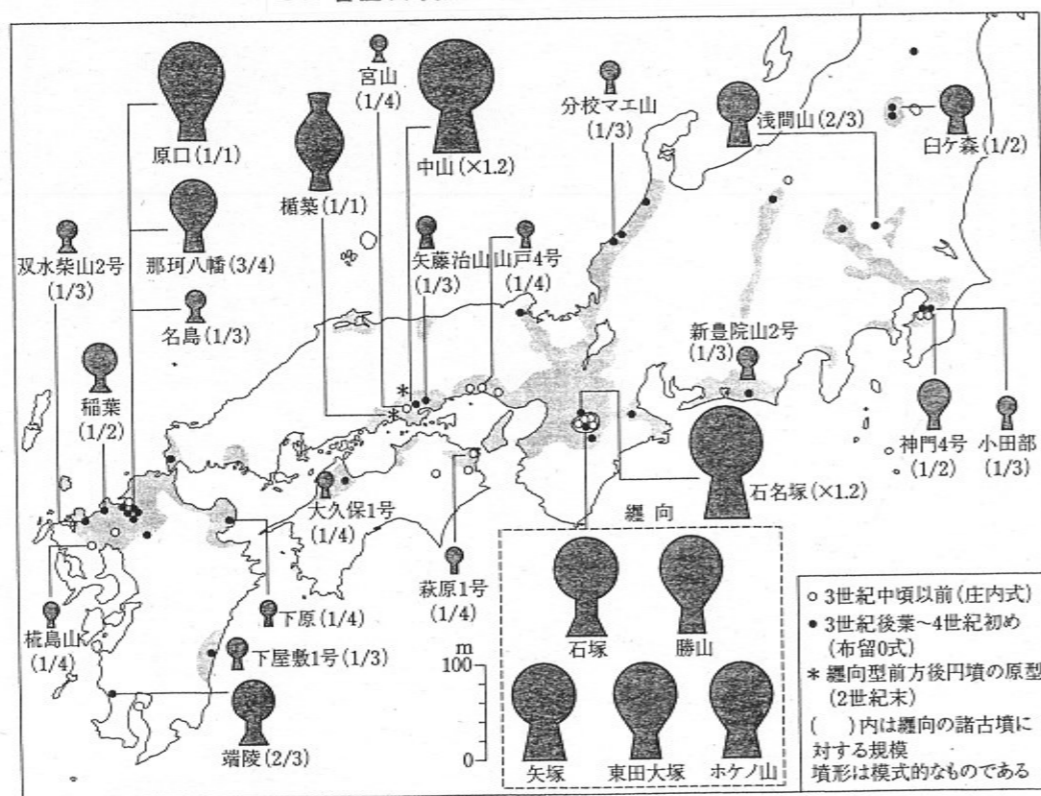
1. 中国の宮車



2. 箸墓古墳の墳丘



3. 箸墓古墳出土壺形埴輪・特殊器台形埴輪



4. 纏向型前方後円墳(前方後円形墳丘墓)の分布

資産No.	構成資産の名称	所在地
1	反正天皇陵古墳(はんぜいてんのうりょうこふん)	堺市
2	仁徳天皇陵古墳、茶山古墳及び大安寺山古墳	堺市
	2-1 仁徳天皇陵古墳(にんとくてんのうりょうこふん)	
	2-2 茶山古墳(ちゃやまこふん)	
	2-3 大安寺山古墳(だいはんじやまこふん)	
3	永山古墳(ながやまこふん)	堺市
4	源右衛門山古墳(げんえもんやまこふん)	堺市
5	塚廻古墳(つかまわりこふん)	堺市
6	収塚古墳(おさめづかこふん)	堺市
7	孫太夫山古墳(まごだゆうやまこふん)	堺市
8	竜佐山古墳(たつさやまこふん)	堺市
9	銅龜山古墳(どうがめやまこふん)	堺市
10	菰山塚古墳(こもやまづかこふん)	堺市
11	丸保山古墳(まるほやまこふん)	堺市
12	長塚古墳(ながつかこふん)	堺市
13	旗塚古墳(はたづかこふん)	堺市
14	銭塚古墳(ぜにづかこふん)	堺市
15	履中天皇陵古墳(りちゅうてんのうりょうこふん)	堺市
16	寺山南山古墳(てらやまみなみやまこふん)	堺市
17	七観音古墳(しちかんのんこふん)	堺市
18	いたすけ古墳(いたすけこふん)	堺市
19	善右工門山古墳(ぜんえもんやまこふん)	堺市
20	御廟山古墳(ごびょうやまこふん)	堺市
21	ニサンザイ古墳(にさんざいこふん)	堺市
22	津城山古墳(つどうしろやまこふん)	藤井寺市
23	仲哀天皇陵古墳(ちゅうあいてんのうりょうこふん)	藤井寺市
24	鉢塚古墳(はちづかこふん)	藤井寺市
25	允恭天皇陵古墳(いんぎょうてんのうりょうこふん)	藤井寺市
26	仲姫命陵古墳(なかつひめのみことりょうこふん)	藤井寺市
27	鍋塚古墳(なべづかこふん)	藤井寺市
28	助太山古墳(すけたやまこふん)	藤井寺市
29	中山塚古墳(なかやまづかこふん)	藤井寺市
30	八島塚古墳(やしまづかこふん)	藤井寺市
31	古室山古墳(こむろやまこふん)	藤井寺市
32	大鳥塚古墳(おおとりづかこふん)	藤井寺市
33	応神天皇陵古墳、菅田丸山古墳及びニツ塚古墳	羽曳野市
	33-1 応神天皇陵古墳(おうじんてんのうりょうこふん)	
	33-2 菅田丸山古墳(こんだまるやまこふん)	
	33-3 ニツ塚古墳(ふたつづかこふん)	
34	東馬塚古墳(ひがしうまづかこふん)	羽曳野市
35	栗塚古墳(くりづかこふん)	羽曳野市
36	東山古墳(ひがしやまこふん)	藤井寺市
37	はざみ山古墳(はざみやまこふん)	藤井寺市
38	墓山古墳(はかやまこふん)	羽曳野市、藤井寺市
39	野中古墳(のなかこふん)	藤井寺市
40	向墓山古墳(むこうはかやまこふん)	羽曳野市
41	西馬塚古墳(にしうまづかこふん)	羽曳野市
42	浄元寺山古墳(じょうがんにやまこふん)	藤井寺市
43	青山古墳(あおやまこふん)	藤井寺市
44	峯ヶ塚古墳(みねがづかこふん)	羽曳野市
45	白鳥陵古墳(はくちょうりょうこふん)	羽曳野市

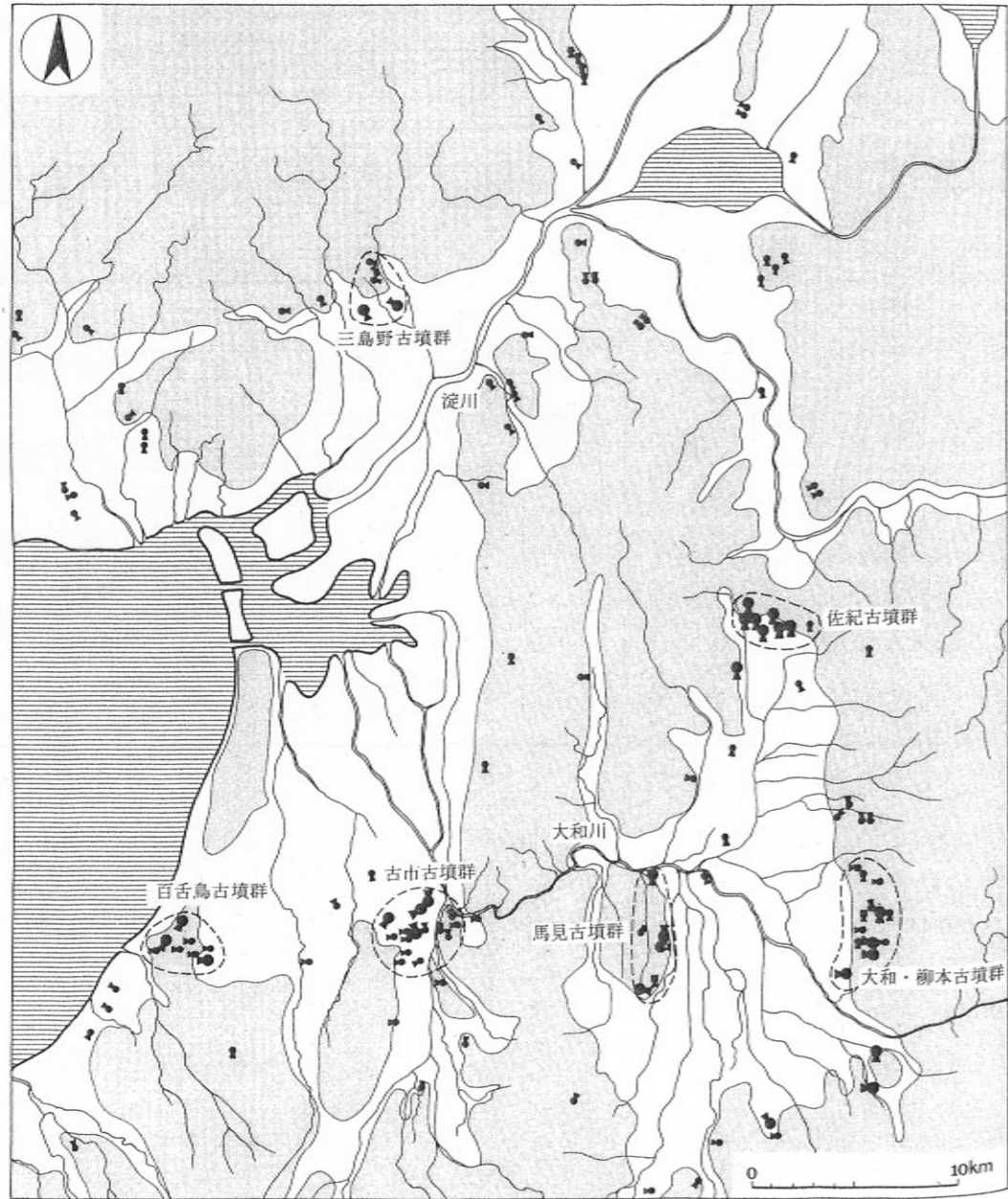
5. 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産構成資産一覧

	古墳名	墳丘長(m)	所在地	備考
1	大山古墳(仁徳陵)	525	大阪府堺市	百舌鳥古墳群
2	誉田御廟山古墳(応神陵)	425	大阪府羽曳野市	古市古墳群
3	石津丘古墳(履中陵)	360	大阪府堺市	百舌鳥古墳群
4	造山古墳	350-60	岡山県岡山市	
5	河内大塚山古墳	335	大阪府羽曳野市・松原市	古市古墳群
6	見瀬(五条野)丸山古墳	310	奈良県橿原市	
7	ニサンザイ古墳	約 300	大阪府堺市	百舌鳥古墳群
7	渋谷向山古墳(景行陵)	300	奈良県天理市	柳本古墳群
9	仲津山古墳(仲津姫陵)	290	大阪府藤井寺市	古市古墳群
10	作山古墳	282	岡山県総社市	

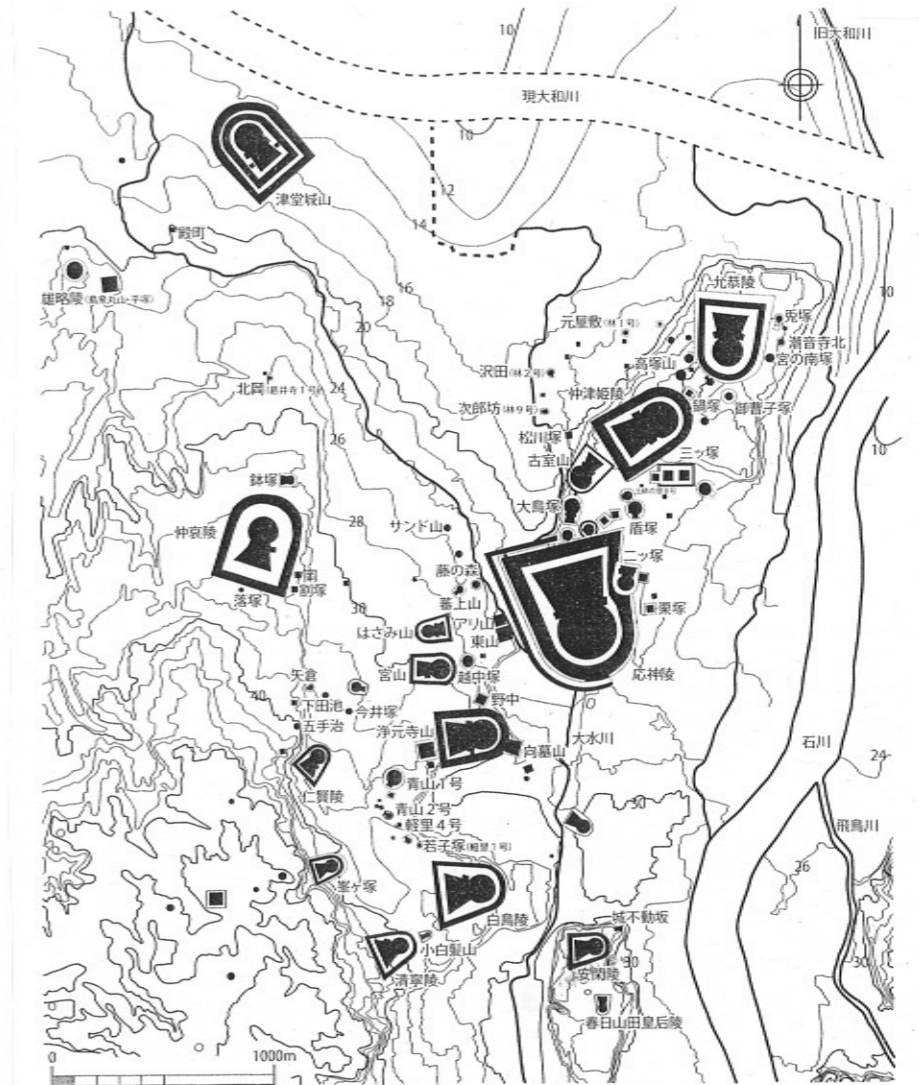
6. 巨大古墳一覧



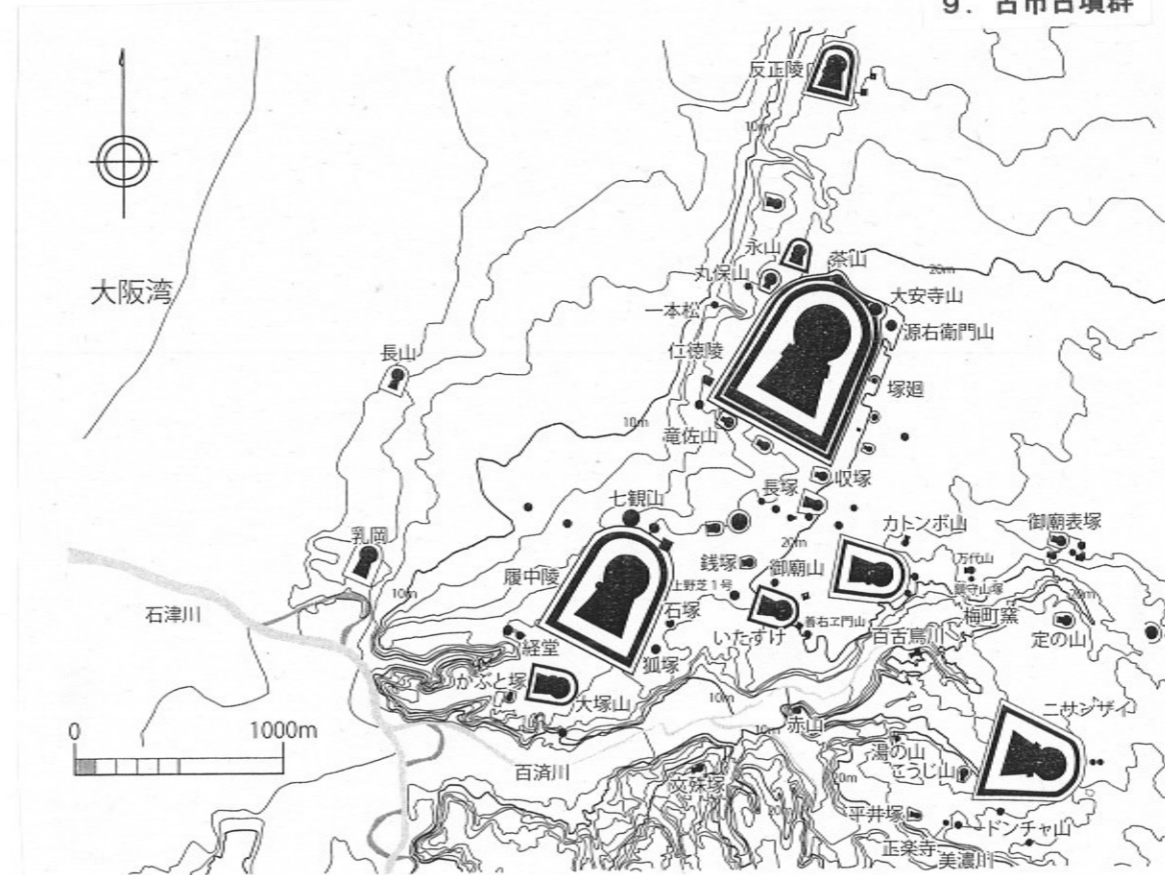
8. 佐紀古墳群



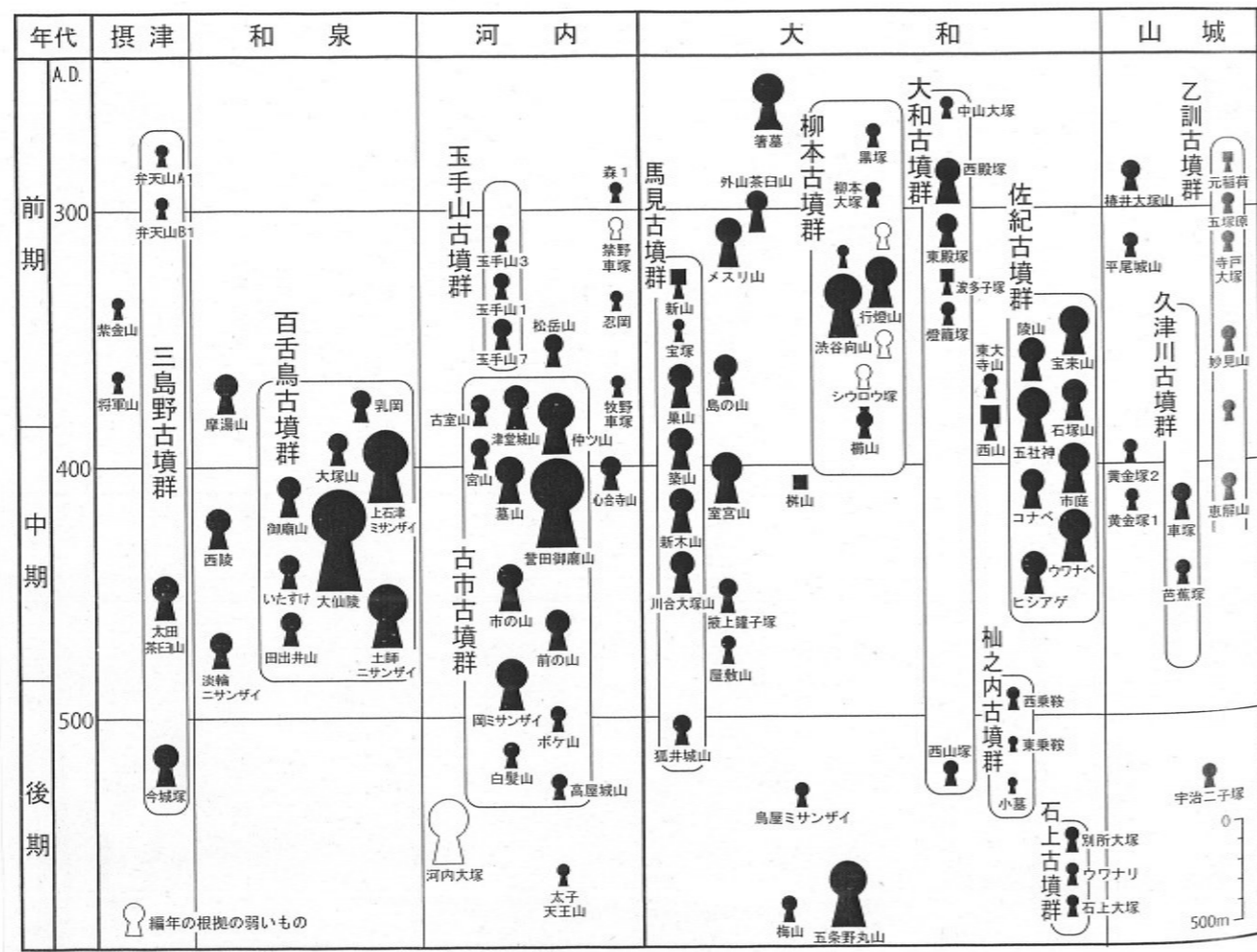
7. 畿内大型古墳の分布



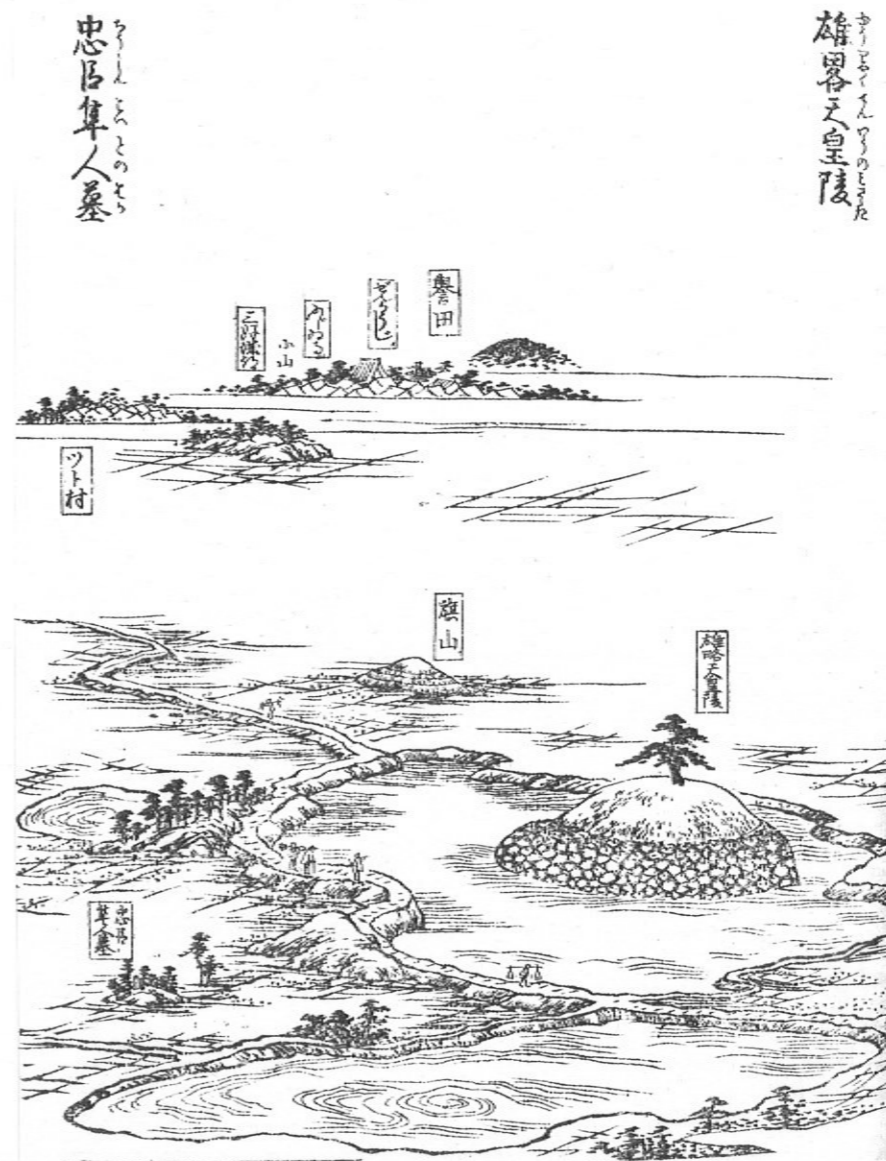
9. 古市古墳群



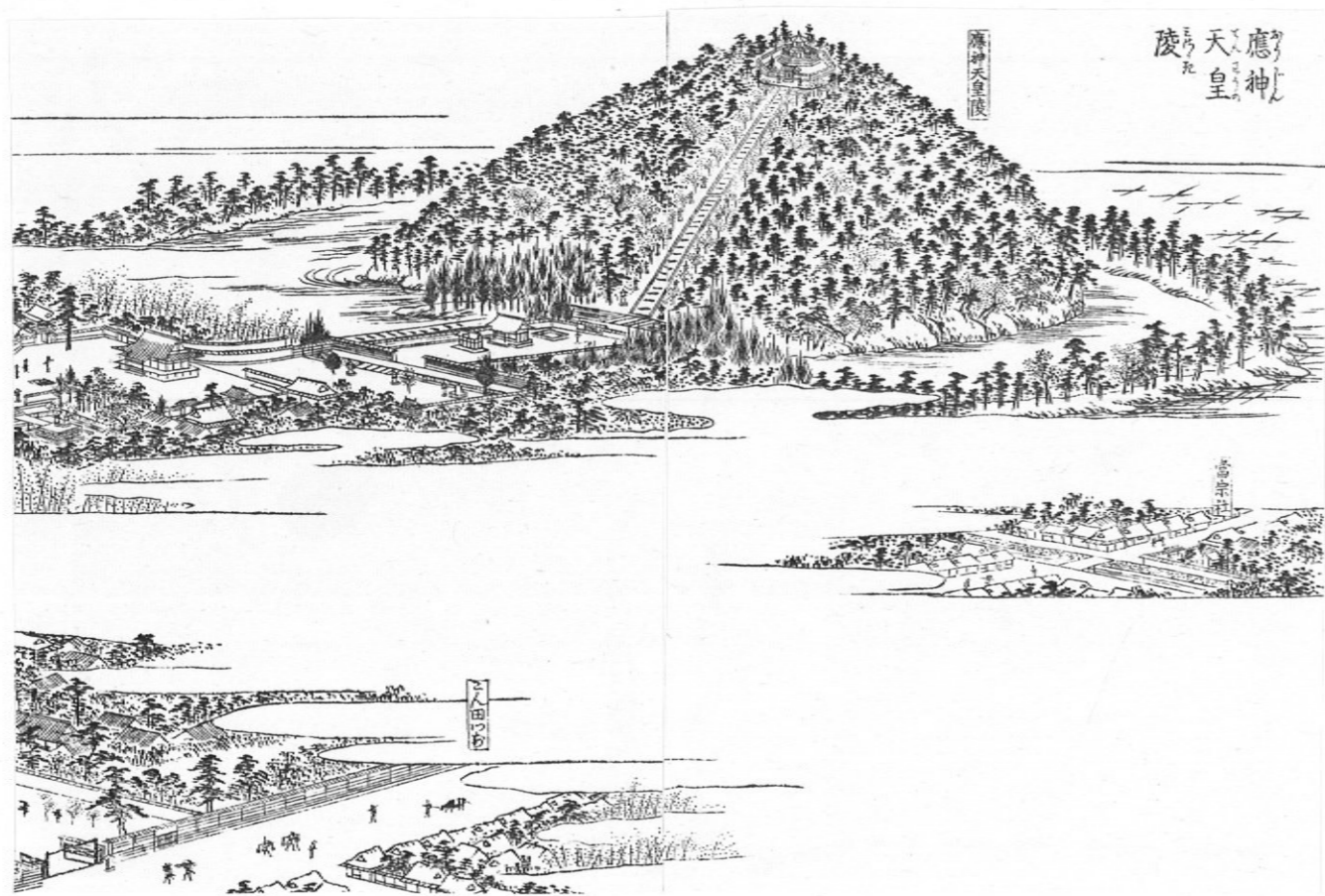
10. 百舌鳥古墳群



11. 畿内大型古墳の編年



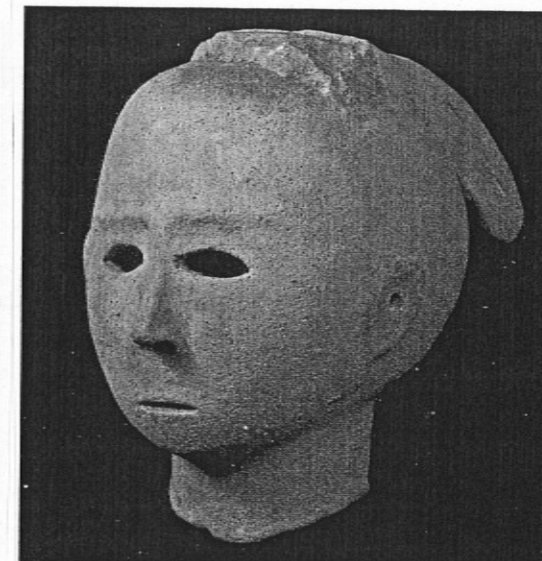
13. 『河内名所図会』雄略天皇陵



12. 『河内名所図会』応神天皇陵



14. 埼玉県出土人物埴輪



15. 大山古墳出土人物埴輪

参考文献

- 一瀬和夫『百舌鳥・古市古墳群』2016
- 今尾文昭『天皇陵古墳を歩く』2018
- 大阪府立近つ飛鳥博物館『百舌鳥・古市の陵墓古墳』2011
- 白石太一郎『倭国の形成と展開』2013
- 吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編『前方後円墳』2019